



# さっぽろのまちづくりにみんなの声を届けよう

第33号

令和8年3月発行

札幌市では様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を生かす取組を進めています。



## 子ども議会

「子ども議会」は、市内の子どもたちが子ども議員として、札幌のまちづくりに関して考え、話し合った内容を発表する取組です。

「私たち子どもが暮らしたいまちにするために必要なことはなんだろう?」という問いをもとに子どもたち自らがテーマを決定し、話し合いました。まとめた意見は市長へ直接報告を行いました。詳しくは、「札幌市子ども議会」と検索して、市公式ホームページをご覧ください。

困っていること、もっとよくしたいことを市長に伝えて、よりよいまちにしよう



## さっぽろ子どもの権利の日 (11月20日) 子どもの権利せんりゅう・ポスター入賞作品

11月20日は「さっぽろ子どもの権利の日」です。子どもの権利を広めるため、子どもたちから「子どもの権利」をテーマとしたせんりゅうとポスター作品を募集しました。その中から、最優秀賞を紹介いたします。たくさんのご応募ありがとうございました！



## ネットトラブル対策

小中高校でネットトラブルに関する授業の拡充（実施校の増加）および札幌市主催のシミュレーション体験イベントの開催。



## 通学路の安心・安全

試験的に片側2車線道路の一部を自転車専用レーンとするなど、自転車の走行環境を整備し、あわせて矢羽根（路面表示）の意味の周知を行う。



## 各グループからの意見

## 環境

さっぽろ雪まつりなどのイベント会場で、「レジ袋」と「パンフレット」の配布によるごみ持ち帰りマナーの啓発。



## 増やそう！ユニバーサル遊具

車椅子からでも乗りやすい回転遊具や幅の広い滑り台などを備えた「ユニバーサルデザイン遊具」のある公園を各区に2~3か所程度増設する。



## 地下鉄のルール・マナーを広めよう

「女性と子どもの安心車両」のルールを直感的に理解できるようにポスターのレイアウト（文字サイズなど）を改善し、チ・カ・ホなどを活用して周知を強化する。



# 子ども通信

子どもにとって大切な権利

- \* 安心して生きる
- \* 自分らしく生きる
- \* 豊かに育つ
- \* 参加する

## 子どもの提案・意見募集ハガキ

## テーマ2 子ども減少時代の学校施設のあり方

札幌市にはおよそ300の小中学校がありますが、この30年間で子どもの数は大きく減り、クラス替えができないような小規模な学校が増えていきます。古い校舎を直したり建て替える必要があることも大きな課題です。これらの時代に合った学校のあり方について意見を募集しました。

新しい友達との出会いを増やすために学校の統合を積極的に進めてほしいという声がある一方で、思い出しつつも母校がなくなる寂しさや、通学距離が伸びることへの不安も寄せられました。その対策として「オンライン授業」を活用するアイデアや、閉校後の校舎を「地域の遊び場」として再利用するなど、今の時代に合わせた学校づくりを求める具体的な提案がたくさんありました。

学校ではなくても高齢者と交流できる施設として建物は残してほしい

統合で制服が新しくなる場合は入学する生徒や在校生の意見も聞いてほしい

みんなの意見の一部を紹介!

通学距離が長くなりすぎないように注意が必要

子どもが減っていく以上、統合は仕方ない



## 札幌市の考え方 (教育委員会学校施設課)

みなさん、たくさん意見をいただき、ほんとうにありがとうございました。みなさんからは、今通っている学校のことだけでなく、わたしたちのまち「さっぽろ」の未来にしっかりと目を向けて、これらの学校をどうしていけばよいか、まちづくりと学校との関係、さらには大切な予算の使い方まで考えられた、たくさん意見をいただくことができ、とてもうれしく思っています。

どの意見も、将来の学校施設のあり方を考えていく上で、とても参考になるものばかりでした。

今回みなさんからいただいた思いを大切にしながら、引き続き、新しい友達との出会いが増えるよう、学校の統合などの取組を進め、「子ども減少時代」の札幌市の子ども教育環境を整えていきたいと思います。

## テーマ1 雪と共生するまちづくり

札幌は冬にたくさん雪が降るまちです。現在は、道路の除雪や地域の人の協力で安全が守られています。将来は除雪のお仕事をしてくれる人が少なくなることが心配されています。そこで、冬の暮らしをより楽しく快適に過ごすためのアイデアを募集しました。届いた意見には「大きな雪だるま作り」や「学校対抗の雪合戦」など、雪を資源として楽しむアイデアが最も多くありました。また、安全な登下校のために大雪の日は「オンライン授業」にしてほしいという声や、雪かきを手伝ったり「プレゼント」がもらえる仕組み、授業での「雪かきボランティア」など、みんなで協力して雪と上手に暮らすための前向きな工夫がたくさん提案されました。

雪かきアルバイトサイトでアルバイト募集!

誰の家とも関係なく、人の通る道を雪かきする

雪がたくさん積もったら ●登校時間を遅くする ●オンライン授業

除雪車の体験で将来の担い手を増やす

学校のボランティア活動として地域の雪かき

みんなの意見の一部を紹介!



## 札幌市の考え方

### (まちづくり政策局未来創生担当課)

みなさん色々な視点から、たくさんアイデアをいただきありがとうございました。札幌市は190万人の人が生活する大きな都市でありながら、年間約5メートルという、たくさんの雪が降る世界でも珍しいまちです。そのため、札幌市での冬の暮らしには、雪かきや雪まつりなど、雪国ならではの日常や魅力がたくさんあります。そんな札幌市で雪と上手に付き合っていくためには、「地域で新しいイベントを開催すること」や、「大雪の日はオンラインで授業を受ける」といった、みなさんからいただいたアイデアはとても重要な視点です。札幌市では、雪の持つ魅力や価値をもっと活かすための方法を話し合っています。みなさんのアイデアを参考にしながら、雪と上手に暮らしていけるまちづくりを推進します。

